2021/11/29（月）

朝の礼拝

聖書　イザヤ11章1-10節（旧約聖書1078頁）

エッサイの株からひとつの芽が萌えいで
その根からひとつの若枝が育ち
その上に主の霊がとどまる。
知恵と識別の霊
思慮と勇気の霊
主を知り、畏れ敬う霊。
彼は主を畏れ敬う霊に満たされる。
目に見えるところによって裁きを行わず
耳にするところによって弁護することはない。
弱い人のために正当な裁きを行い
この地の貧しい人を公平に弁護する。
その口の鞭をもって地を打ち
唇の勢いをもって逆らう者を死に至らせる。
正義をその腰の帯とし
真実をその身に帯びる。

狼は小羊と共に宿り
豹は子山羊と共に伏す。
子牛は若獅子と共に育ち
小さい子供がそれらを導く。
牛も熊も共に草をはみ
その子らは共に伏し
獅子も牛もひとしく干し草を食らう。
乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ
幼子は蝮の巣に手を入れる。
わたしの聖なる山においては
何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。
水が海を覆っているように

大地は主を知る知識で満たされる。
その日が来れば
エッサイの根は
　　すべての民の旗印として立てられ
国々はそれを求めて集う。
そのとどまるところは栄光に輝く。

平和への祈り

皆さんが生まれる前の20世紀は「戦争の世紀」とも言われています。特に第二次世界大戦では世界で約8千万人、日本では約310万人の方が犠牲となり、そのうち原爆によって広島と長崎では21万人の方が犠牲となりました。

戦後、日本は新しい憲法を定めました。特に戦争を放棄し、積極的に世界の「平和」に貢献すると誓いました。こうして犠牲者の方々への祈りが「平和」を求める祈りとなりました。それは戦争を知らずに生活してる人びとにとっても永遠の願いです。

旧約聖書のイザヤという預言者の時代は祖国が滅亡し占領され、外国へ連行され、また仲間も世界に散らされた時代でした。彼らは土地や家族、そして自由を奪われただけでなく、言葉も文化も奪われ民族の危機に瀕していたのです。

その深い痛みを癒やすのに言葉はあまりに無力でした。イザヤは神様の夢、幻を描くことで民衆の魂を震わせたのでした。クリスマスを待つアドベントの季節となりました。世界の人びとと共に平和を描き、祈る季節を迎えました。

しばらく黙祷しましょう。

祈りましょう

真理と平和の源である主よ、すべての人の心に平和を愛するまことの愛を燃やし、国々の交わりに携わる人びとに、平和を造り出す知恵を与え、主の愛を知る知識をこの世界に満たしてください。どうかあなたの愛と平和に仕えるために、英和での学びを祝福してください。期末テストが近づきました。英和生の健康を守りよき備えの時を過ごさせて下さい。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン